

夏休み防災未来教室 ～震災復興20年の軌跡～ 「六甲山の災害展 2014」の開催

農政環境部治山課、神戸県民センター六甲治山事務所、神戸土木事務所

1. はじめに

過去から度重なる土砂災害等が発生している六甲山の災害の状況を、広く県民の方には知っていただき、ゲリラ豪雨や地震等への備えの大切さを学んでもらうため、夏休み期間中の8月19日から31日の約2週間にわたり、人と防災未来センターにおいて、「六甲山の災害展」を開催しました。

会場では、パネルの展示や模型実験の実演、はばタンと一緒に学ぶ防災教室など、様々な企画を通じて、山地災害への備えと注意を呼びかけました。

2. 六甲山の土砂災害写真のパネル展示

阪神大水害（昭和13年）、昭和42年災の写真に加え、「阪神・淡路大震災20年事業」として、「震災後の新たな取組」のブースを設けて、地震に強い斜面工法の紹介を行いました。



展示パネル
(阪神大水害 昭和13年被災状況)



地震に強い斜面工法ビデオ説明
(振動台模型での実験状況)

3. 体験ブース

家族連れや小学生に大変人気があったブースが、土石流の発生等を3D映像で見られる『3D立体映像装置びっくり館』とジオラマを使った『土石流実験装置』の実演でした。3D立体映像と音響の迫力には、土石流の恐ろしさをリアルに体感できると好評でした。また、土石流実験では、家や道路が瞬く間に土石流に埋もれてしまう様子や模型の治山ダムが街を守っている様子を興味深く観察し、「土石流のスピードはどれくらい」「ダムに溜まった土砂は取ってくれるのですか」など、多くの質問や感想が溢れました。



土石流実験装置



3D立体映像装置びっくり館

4. 「危険箇所を知ろう」ブース

自分の命は自分で守るの意識を高めてもらうため、県ホームページに掲載している「CGハザードマップ」を来客者に操作してもらい、自宅周辺の危険箇所や避難場所を調べてもらいました。

5. 防災教室ブース

今回も昨年度に引き続き、関西大学サークルKUMCの大学生らと今回初登場のマスケット「はばタン」と一緒に、「遊びながら、楽しく防災を学ぼう」をコンセプトとして、子供たちに「非常持ち出し袋のなかみは？」クイズで、リュックサックに詰め込む減災グッズ探しなど、災害への備えを親子で考えてもらいました。関西大学生からは、クイズに挑戦している子供たちにアドバイスやヒントを出してもらおうなど、きめ細やかな学びの場が提供でき、防災意識の向上の相乗効果が十分に期待できました。



関西大学サークルKUMCの大学生やはばタンがお手伝い

6. おわりに

今回の災害展は、丹波市や広島市で甚大な土砂災害が発生した直後であったことや、六甲山の地質が広島と同じ花崗岩であったということもあり、土砂災害への熱心な質問が多く寄せられました。六甲山は先人のご尽力により、はげ山への植林や多数の治山ダムなど、安全な県土がつくり上げられています。これら取組みへの感謝と災害の教訓を忘れることなく、地域や世代を越えて伝え続けるうえで、この災害展が少しでもお役に立てればと願っています。